

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	共愛学園前橋国際大学
設置者名	学校法人 共愛学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・ 通信 制の 場合	実務経験のある 教員等による 授業科目の単位数				省令 で定 める 基準 単位 数	配 置 困 難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
国際社会学部	国際社会学科	夜・ 通信	48		6	54	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<p>本学ホームページ「公表情報コーナー」実務経験のある教員等による授業科目にて公表  <a href="https://www.kyoai.ac.jp/guide/disclose/">https://www.kyoai.ac.jp/guide/disclose/</a></p>
---

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	共愛学園前橋国際大学
設置者名	学校法人 共愛学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

本学ホームページ「公表情報コーナー」役員名簿にて公表  
<https://www.kyoai.ac.jp/guide/disclose/>  
事業報告書2ページ参照

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	弁護士	令和4年4月 1日～ 令和8年3月 31日	コンプライアンス
非常勤	(株)群馬銀行代表取締役 会長	令和4年4月 1日～ 令和8年3月 31日	経営、ガバナンス
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	共愛学園前橋国際大学
設置者名	学校法人 共愛学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>シラバス前年度の12月から1月末までに各授業担当者がMIDSシラバス登録により作成し、2月から3月にかけて担当者並びに各コース長が確認し、3月中旬に公表している。シラバスには、概要、到達目標、共愛12の力との対応、教授法及び課題のフィードバック方法、受講条件・前提科目、評価方法・評価の割合・関連する「共愛12の力」、テキスト、参考図書、各回の授業内容・スケジュール、授業以外に必要な学修時間等を記載しています。</p> <p>本学のシラバス記入は多岐にわたっているため、学生が履修前に必要事項を把握する上で、十分な情報を提供している。学生がシラバスの内容を確実に把握・理解した上で履修開始した上で履修開始ができるよう第1回目の授業を「シラバス授業」と呼び、担当教員は、授業の目標、15週の流れ、成績評価の方法などシラバス内容の説明をした後に、授業を開始している。そのため、学生は履修を決めるにあたって、シラバスの内容を正確に把握することができます。</p>	
授業計画書の公表方法	<p>本学ホームページ「公表情報コーナー」授業計画(シラバス)にて公表</p> <p><a href="https://www.kyoai.ac.jp/guide/disclose/">https://www.kyoai.ac.jp/guide/disclose/</a></p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

成績評価に関して、評価方法・評価基準をシラバスに記載し、シラバス授業で必ず説明している。授業アンケートを実施し、その結果を当該授業の受講生にフィードバックをするとともに、教員が受講生とともに授業方法も含めて改善している。学生も MIDS システムにより自身の履修科目や出席状況、成績や修得単位数などを確認することができます。

なお、ポートフォリオを運用しており、学修成果指標とその評価のためのコモンルーブリックが策定され、成果を検証しながら学生と教員との振り返りを経て、次期の学修計画に活かされています。

#### 成績評価

秀	90～100 点 (成績評価の厳格化により原則上位 10%以内)
優	80～100 点
良	70～79 点
可	60～69 点
認定	単位認定
不可	59 点以下 (不合格)
欠席	試験受験せず
抹消	受験資格なし

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

学生の成績を総合的に判定する方法として、GPA (Grade Point Average) 制度を導入している。GPAは成績評価のうち「秀」を「5」として以下、優=4、良=3、可=2、不可=1として5ポイント満点で集計しています。

本学では特待生の継続審査や学業奨励賞や奨学金の審査などに利用している。2～3年次の特待生の継続、学業奨励賞は年間のGPAを審査対象としている。4年生の学業奨励賞は通算を審査対象としています。

※4年生の学業奨励賞を除き1・2年生は年間13科目以上、3年生では年間10科目以上修得していることが特待生の継続や学業奨励賞の審査条件となっている(教職単位を含む)。長期留学参加者や長期インターンシップ参加者の特待生継続審査は学年に係らず8科目以上修得していることが審査の条件となっています。なお、複数年にわたって履修する科目(介護等体験や教育実習事前事後指導など)については、成績が出た年の科目数及びGPAとしてカウントしています。

積算方法	年間	$\frac{((秀 \times 5) + (優 \times 4) + (良 \times 3) + (可 \times 2) + (不可 + 欠席 + 抹消))}{(秀 + 優 + 良 + 可 + 不可 + 欠席 + 抹消)}$
	通算	$((秀 \times 5) + (優 \times 4) + (良 \times 3) + (可 \times 2)) \div (秀 + 優 + 良 + 可)$

客観的な指標の  
算出方法の公表方法

公表方法：本学ホームページ「公表情報コーナー」GPAについてにて公表  
<https://www.kyoi.ac.jp/guide/disclose/>

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

(2022年度以前の入学生)

学位授与基準については、ディプロマポリシーで「学則に定める在学期間を満たし、かつ共愛コア科目・外国語科目・専門科目・演習科目・個性的選択科目などからなる124単位を修得した学生に対し」、下記に掲げる能力を獲得したと認定し、学士（国際社会）を授与します。

1. 地域社会への諸課題への対応能力
2. 国際社会と地域社会の関連性についての識見
3. 問題を発見し解決するための分析能力・実践的技能
4. 国際化社会に対応できる十分なコミュニケーション能力

また、各自の専門性を養うため、コースごとに身につける素養を定めています。

124単位の内訳については、卒業要件として「履修規程」に明示し、履修ガイドや学生webで公開しています。

学位の授与は、学則第4章第7条2項により、教授会の審議を経て、学長の決定事項となっています。決定までの手続は、教務グループ会議において卒業判定資料を作成、可否を審議し、次に教授会で卒業判定資料に基づき、可否を審議し、最終的に学長が認定します。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

(2023年度以降の入学生)

ディプロマポリシーで、学則に定める在学期間を満たし、本学の履修規程に則り124単位を修得して、下記に掲げる能力を身につけた学生に、学士（国際社会）を授与します。

1. 地域社会への諸課題への対応能力
2. 国際社会と地域社会の関連性についての識見
3. 問題を発見し解決するための分析能力・実践的技能
4. 国際化社会に対応できる十分なコミュニケーション能力

各コースでは、コースで学びディプロマポリシーで定められた資質・能力を身につける人材に成長することをめざします。

124単位の内訳については、卒業要件として「履修規程」に明示し、履修ガイドや学生webで公開しています。

学位の授与は、学則第4章第7条2項により、教授会の審議を経て、学長の決定事項となっています。決定までの手続は、教務グループ会議において卒業判定資料を作成、可否を審議し、次に教授会で卒業判定資料に基づき、可否を審議し、最終的に学長が認定します。

科目区分と必要取得単位数（2022年度以前の入学生）

区 分	単位数	備 考
外国語科目	14 単位以上	必修 12 単位・選択 2 単位
共愛コア科目	20 単位以上	必修 6 単位、選択必修 2 単位、履修必修 6 単位を含む。各群から平均的に履修するのが望ましい。
専門科目	62 単位以上	*コースによって履修方法が異なります。
演習	12 単位	すべて必修
個性的選択	16 単位以上	専門科目、自由選択科目から自由に履修してください。共愛コア科目からの読替えも可。
合 計	124 単位以上	

科目区分と必要取得単位数（2023年度以降の入学生）

	区 分	単位数	備 考
学部 共通 科目	外国語科目	12 単位以上	<共愛英語プログラム><共愛中国語プログラム><共愛多言語プログラム>の3つのプログラムから選択 <共愛日本語プログラム>は留学生用。英語コミュニケーションコースは<共愛英語プログラム>のみ
	MIDA 科目	10 単位以上	必須科目 (◎) 選択必修科目 (★) 2 単位
	共愛コア科目	16 単位以上	<共愛・共生領域>必修科目 (◎) 4 単位 <国際・社会理解領域>必修科目 (◎) 2 単位 <共愛・共生領域><国際・社会理解領域><地域理解領域>からそれぞれ2単位以上選択必修 (★)
	キャリア科目	10 単位	必修科目 (◎) 4 単位 選択必修科目 (★1) 2 単位以上 (★2) 4 単位以上
	GLOCAL 科目	8 単位以上	<Glocal PBL>必修科目 (◎) 4 単位 <Global 領域><Local 領域>それぞれ履修するのが望ましい
	セルフデザイン	12 単位以上	学部共通科目の単位、もしくは外国語科目・MIDA 科目・共愛コア科目・キャリア科目・GLOCAL 科目・専門科目の上記単位数を超えた単位
	専門科目	44 単位以上	各コースによって卒業要件が異なる
	演習	12 単位	全て必修科目 (◎)
	合 計	124 単位以上	

卒業の認定に関する  
方針の公表方法

公表方法：本学ホームページ「公表情報コーナー」取得可能  
学位、科目区分と必修取得単位数、成績評価にて公表  
<https://www.kyoai.ac.jp/guide/disclose/>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	共愛学園前橋国際大学
設置者名	学校法人 共愛学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	<a href="https://www.edu.kyoai.ac.jp/disclose">https://www.edu.kyoai.ac.jp/disclose</a>
収支計算書又は損益計算書	<a href="https://www.edu.kyoai.ac.jp/disclose">https://www.edu.kyoai.ac.jp/disclose</a>
財産目録	<a href="https://www.edu.kyoai.ac.jp/disclose">https://www.edu.kyoai.ac.jp/disclose</a>
事業報告書	<a href="https://www.edu.kyoai.ac.jp/disclose">https://www.edu.kyoai.ac.jp/disclose</a>
監事による監査報告(書)	<a href="https://www.edu.kyoai.ac.jp/disclose">https://www.edu.kyoai.ac.jp/disclose</a>

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称: )	対象年度: )
公表方法:	
中長期計画(名称: )	対象年度: )
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: 本学ホームページ「自己点検評価と第三者評価」にて公表 <a href="https://www.kyoai.ac.jp/guide/check/">https://www.kyoai.ac.jp/guide/check/</a>
---

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: 本学ホームページ「自己点検評価と第三者評価」共愛学園前橋国際大学の評価結果にて公開 <a href="https://www.kyoai.ac.jp/guide/check/">https://www.kyoai.ac.jp/guide/check/</a>
--



(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 国際社会学部
教育研究上の目的（公表方法：本学ホームページ教育の目的にて公表 <a href="https://www.kyoai.ac.jp/guide/intention/">https://www.kyoai.ac.jp/guide/intention/</a> ）
（概要） 本学を卒業するとき、すべての卒業生に「学士（国際社会）」の学位が授与されます。 それは、すべてのコースの学生が国際社会学部の一員であり、本学が教育の目的に掲げる「国際社会のあり方について見識と洞察力を持ち、国際化に伴う地域社会の諸課題に対処することのできる人材」、すなわち GLOCAL 人材へと成長したことの証明でもあります。地域と世界をつなぐ GLOCAL な人材を育成すること。それが日本で初めて開設された国際社会学部のコンセプトなのです。
卒業の認定に関する方針（公表方法：本学ホームページ 3 つのポリシーにて公表 <a href="https://www.kyoai.ac.jp/guide/policies/">https://www.kyoai.ac.jp/guide/policies/</a> ）
（概要）（2022 年度以前の入学生） 本学は、学則に定める在学期間を満たし、かつ共愛コア科目・外国語科目・専門科目・演習科目・個性的選択科目などからなる所定の 124 単位を修得した学生に対し、下記に掲げる能力を獲得したと認定し、学士（国際社会）を授与します。  1. 地域社会への諸課題への対応能力 2. 国際社会と地域社会の関連性についての識見 3. 問題を発見し解決するための分析能力・実践的技能 4. 国際化社会に対応できる十分なコミュニケーション能力 また、各自の専門性を養うため、コースごとに身につける素養を定めています。
（概要）（2023 年度以降の入学生） 本学は、学則に定める在学期間を満たし、本学の履修規程に則り 124 単位を修得して、下記に掲げる能力を身につけた学生に、学士（国際社会）を授与します。  1. 地域社会への諸課題への対応能力 2. 国際社会と地域社会の関連性についての識見 3. 問題を発見し解決するための分析能力・実践的技能 4. 国際化社会に対応できる十分なコミュニケーション能力 各コースでは、コースで学びディプロマポリシーで定められた資質・能力を身につける人材に成長することをめざします。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本学ホームページ 3 つのポリシーにて公表 <a href="https://www.kyoai.ac.jp/guide/policies/">https://www.kyoai.ac.jp/guide/policies/</a> ）
（概要）（2022 年度以前の入学生） 本学では、キリスト教に基づく教育理念「共愛＝共生の精神」の下、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた諸能力を修得した人材を育成するため、「共愛コア科目」・「外国語科目」・「専門科目」・「演習（ゼミナール）」などの科目群により教育課程を体系的に編成します。 専門科目はコース毎に決められており、学術的専門領域に合わせて深く学びます。他コースの専門科目でも、自分の関心に合わせて履修することができます。

このようなカリキュラムの構造をわかりやすく示すためナンバリングにより、科目間の関連や科目内容の難易度を明示します。

また、コースのカリキュラムを基礎（主専攻）として、実社会と結びついた資質能力を高める2つの副専攻と1つの高度教育プログラムを編成します。

Global Career Training 副専攻：地域と世界をつなぐリーダーシップを身につけるために、「Global Language Intensive」・「Global Skills」・「Global Project Work」からなる科目群でカリキュラムを編成します。

Regional Career Training 副専攻：地域産業と密接に関わり、社会的職業的自立を図り、地域で活躍するために必要な力を身につけるために、地域力・自分力・実践力に関する科目群でカリキュラムを編成します。

Kyoai Glocal Honors（高度教育プログラム）：世界の視点から地域の未来を創ることができる次世代グローバルリーダーを育成するために、「Honors Base」・「Glocal Honors 演習」の科目群によりカリキュラムを編成します。ただし、このプログラムには受講条件があります。

（概要）（2023年度以降入学生）

本学では、キリスト教に基づく教育理念「共愛＝共生の精神」の下、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた諸能力を修得した人材を育成するため、共愛コア科目・外国語科目・MIDA科目（Mathematics, ICT, Data science, AI）・グローバル科目・キャリア科目・専門科目・演習（ゼミナール）などの科目群により教育課程を体系的に編成します。

また、上記カリキュラムを基礎として、世界の視点から地域の未来を創ることができる次世代グローバルリーダーを育成するために Kyoai Glocal Honors（高度教育プログラム）を編成します。ただし、このプログラムには受講条件があります。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：本学ホームページ3つのポリシーにて公表 <https://www.kyoai.ac.jp/guide/policies/>）

（概要）

1888年（明治21年）に設立された共愛学園は、百二十余年にわたり共愛の精神をその教育の柱に据えてきました。本学は、共愛の精神とはすなわち、今日的に換言すれば共生の精神であると捉え、「共愛＝共生の精神」を建学の理念としています。

また、本学に設置される国際社会学部は、「国際社会の在り方について見識と洞察力を持ち、国際化に伴う地域社会の諸課題に対処することのできる人材の養成」を目的としています。

この理念と目的をふまえ、本学では次のような素養をもつ人物の入学を期待しています。

1. 自分と他者を愛し、社会と共に生きていこうとする精神をもっている人
2. 常に世界に視野を広げながら、地域社会を大切に思う人
3. 自ら主体的に学ぶ意欲があり、他者と協力して学習・活動に参画できる人
4. 大学での学びに必要な能力—基礎的な学力、コミュニケーション力、思考力、文章力、問題発見力など—をもっている人
5. スポーツや芸術、社会活動に積極的に取り組んでいる人
6. 本学と志望するコースの教育内容をよく理解した上で、本学と志望コースでの学修を強く望んでいる人

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：公表方法：本学ホームページ「公表情報コーナー」教員組織図にて公表  
<https://www.kyoai.ac.jp/guide/disclose/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
国際社会	3人	-					3人
国際社会	-	17人	4人	9人	1人	1人	32人
	-	人	人	人	人	人	人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長			学長・副学長以外の教員				計
人			81人				81人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：本学ホームページ「公表情報コーナー」教員組織、各教員が有する学位及び業績にて公表 <a href="https://www.kyoai.ac.jp/guide/disclose/">https://www.kyoai.ac.jp/guide/disclose/</a>					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
国際社会	299人	309人	103%	1156人	1229人	106%	2人	4人
	人	人	%	人	人	%	人	人
合計	299人	309人	103%	1156人	1229人	106%	2人	4人
(備考)								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
国際社会	262人 (100%)	7人 (2.7%)	233人 (88.9%)	22人 (8.4%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	262人 (100%)	7人 (2.7%)	233人 (88.9%)	22人 (8.4%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
国際社会	284人 (100%)	252人 (88.7%)	14人 (4.9%)	18人 (6.4%)	0人 (0.0%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	284人 (100%)	252人 (88.7%)	22人 (4.9%)	19人 (6.4%)	0人 (0.0%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要) シラバスには、概要、到達目標、共愛12の力との対応、教授法及び課題のフィードバック方法、受講条件・前提科目、評価方法・評価の割合・関連する「共愛12の力」、テキスト、参考図書、各回の授業内容・スケジュール、授業以外に必要な学修時間等を記載しています。
---

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) 成績評価に関して、評価方法・評価の割合をシラバスに記載し、シラバス授業で必ず説明しています。授業アンケートを実施し、その結果を当該授業の受講生にフィードバックをするとともに、教員が受講生とともに授業方法も含めて改善しています。 本学は、ディプロマポリシーで「学則に定める在学期間を満たし、かつ共愛コア科目・外国語科目・専門科目・演習科目・個性的選択科目などからなる124単位を修得した学生に対し」、学士（国際社会）を授与します。				
学部名	学科名	卒業に必要な 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
国際社会	国際社会	124単位	⑦・無	44単位
		単位	有・無	単位
		単位	有・無	単位
		単位	有・無	単位
GPAの活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：本学ホームページ「公表情報コーナー」校地・校舎等の施設その他の学生の教育研究環境にて公表 <a href="https://www.kyoai.ac.jp/guide/disclose/">https://www.kyoai.ac.jp/guide/disclose/</a>
---

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考(任意記載事項)
国際社会	国際社会	612,000 円	250,000 円	380,000 円	2020 年度以前入学者
		690,000 円	260,000 円	300,000 円	2021 年度以降入学者
		円	円	円	
		円	円	円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

<p>a. 学生の修学に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <p>修学支援については、学生センター、図書館、外国語センター、情報処理センターが主たる管轄部署となっています。</p> <p>留年者や休・退学者の把握は日常的に行われ、毎月実施している学生グループ会議および教授会で報告し、学長が承認しています。留年者および休・退学者の防止については、一斉出欠席状況調査を行って、欠席の多い学生の情報は、学生センター職員よりゼミの担当教員に報告や相談を行っています。</p> <p>外国語センターは英語・中国語などの語学、図書館にあるラピタデスクはレポート作成の支援、4号館では授業外学修全般および主体的・能動的学修の支援を行っています。また、研修を経た学生を英語チューター・中国語チューター(語学)、図書館ラピタデスク(レポート作成支援)、ITサポート(PC利用についての支援)に採用し、学生による学生のための学修支援制度を行っている。障がいのある学生に対する修学支援については、DE&amp;I推進室と連携を取りながら行っています。</p> <p>経済面の修学支援として、共愛学園ともさくら奨学金、学業奨励奨学金、コース学業奨励奨学金、ワークスタディ奨学金、RA奨学金、特別奨学金、災害修学支援金、海外留学奨学金の8種類の学内奨学金制度があります。</p>
<p>b. 進路選択に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <p>本学の教育理念「共愛・共生の精神」を基に、地域社会で活躍できる人材として社会に送り出せるよう、全学年においてサポートを行うプログラムを実施しています。共愛学園中期経営計画では「学生のキャリア支援」を掲げ、学生のキャリア形成、就職指導、卒業後のフォローアップまで総合的に支援を行っています。</p> <p>1年次～3年次には自分を知り、社会と産業を知り、その主要な要素である企業を知ること、大学卒業後に進むべき進路を見出し、その進路を進む力を身につけるためキャリアプランニングⅠ～Ⅳを開講しています。さらに目的に合わせて内容や参加期間が多様なインターンシップや学内会社説明会を実施しています。</p> <p>なお、教職をめざす学生には、教職支援室が必要な情報の提供や支援・指導を行っています。</p>
<p>c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組</p>

(概要)

学生の身体の健康と衛生に関して保健室が中心に取り組んでいます。保健室は、養護教諭1名が常勤で勤務し、定期健康診断の管理と問題のある学生は校医と連携して個別対応を行っています。また、学内各所に手指消毒液とマスクを配置し、感染症予防に努めています。心の悩みについてはDE&I推進室が担当していますが、養護教諭も構成員の一人として学生の生活支援に努めています。

本学は、ハラスメントに対しては、非常に厳しく対応しています。6名の学内委員と4名の相談員で構成されたハラスメント防止対策委員会を設置し、啓発活動および実際の調停なども行っています。本委員会は、その他のハラスメント（ジェンダーハラスメント、アカデミックハラスメント、パワーハラスメント等）にも対応し、啓発、防止、救済活動を行っています。

教職員には、セクシャルハラスメントガイドラインの作成および配布も徹底しています。その他、スタッフ会議においてハラスメント防止研修会も実施しています。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：本学ホームページ「特色ある学び」にて公表  
<https://www.kyoai.ac.jp/guide/feature/>

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	F110310101844
学校名	共愛学園前橋国際大学
設置者名	学校法人 共愛学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		150人	150人	161人
内 訳	第Ⅰ区分	79人	81人	
	第Ⅱ区分	43人	44人	
	第Ⅲ区分	28人	25人	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				161人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人		
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下)	—		
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	—		
「警告」の区分に連続して該当	—		
計	—		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡つて認定の効力を失った者の数

右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期		後半期

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。



3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下)	—		
GPA等が下位4分の1	26人		
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	—		
計	26人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。